

# 大学生活で変化したこと

理学部 物質科学科 放射光高圧物質科学講座 前田 拓也

ここでは私が大学生活を通して考えてきたこと、変化したことについて書こうと思う。

多くの人は、私が優秀学生に選出されると知ると驚くかもしれない。なぜなら、私は成績について4年間、自分から人に話すことは無かったからだ。人から尋ねられても、うやむやにすることが多かった。その点に関して、もし不愉快に思う人がいるならば謝りたい。しかし、黙っていたには、以前の私なりの理由があった。それは慢心を避けるためであった。

まず、視野を県大から広げてみると、成績という1点に限ったとしても、上には上がいる。さらに、そもそも成績はGPAによるシンプルな指標の1つに過ぎない。確かに比較的公平な指標ではあるが、学科ごとの難易度や選択科目、過去問の有無などに大きく影響される。実際、私は日々の授業やテスト勉強など、やると決めたことを徹底してただけであり、運が良かったのだと思う。だから優秀学生という肩書きに甘えず、自分を磨く必要があると考えていた。

このように書くと聞こえは良いかもしれないが、今振り返ってみると、これまでの私は自信が無かっただけかもしれない。成績優秀というレンズのみを通して見られるのを避けていた。他人の評価を気にしすぎていたのだと思う。

しかし、大学生活を送る中で、徐々に考えが変化した。他人の評価は関係ない、自分の信じた道を突き進めばよいのだ、と考えるようになった。これは県大で出会った人々のおかげだ。私の友人には特に、研究、音楽、人助けのそれぞれに打ち込む者がいた。彼らは世間体を気にするのではなく、純粹に自分が好きなこと、自分にとって大切なことのために行動していた。私はその姿に強く影響された。そして私自身もそうありたいと思うようになった。

ただ、私にとって好きなことで生きていくのは思っていたほど簡単ではなかった。深く考えずに、一般的に良いとされている普通の道を歩んでゆくほうが楽だったからだ。それまでやるべきことをやるだけだった私にとって、好きなことを見つけることは難しかった。そこで最初は、気になることからとりあえず挑戦してみることにした。

今、4年間を振り返ると、バイオリンを始めたり、防災ユニットに所属し東日本の被災地を訪れたり、兵庫県・広東省大学生交流プログラムに参加したり、院試勉強をしたり、授業以外にも様々な経験をした。勉強に関しても、今なら他人の目を気にする必要などないと言い切れる。以前の私は狭い枠に囚われていたと思う。好きなことに好きなだけ没頭すればよい。その結果に関して、慢心も謙遜もしすぎる必要はなく、さらなる高みを目指せばよいだけだ。このように、他人を気にし過ぎていた自分から、気になることはやってみる自分へと変化しようとするのができた。4月からは東京大学大学院に進学するが、新たな道でも頑張りたいと思う。

大学生活の4年間、私は本当に人に恵まれていたと思う。多くの人に支えていただき、迷惑をかけることもあったと思う。チャンスを与えてくれた人、応援してくれた人、支えてくれた人、

お世話になったすべての人に感謝しています。

最後になりましたが、お世話になりました研究室の皆様、QSTの皆様、大学の先生方、学務課の皆様に深く感謝いたします。また、ストリングオーケストラ部の皆様、LANの皆様、アルバイト先の皆様、そして友人に感謝します。皆様のおかげで幸せな大学生活を送ることができました。最後に、ここまで育ててくれた家族に感謝します。